

令和４年度学校関係者評価委員会における委員の意見及び本校の認識・対応方針

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
1 教育理念・目標	【加藤委員】 学長が強い信念をもち、リーダーシップのもと改革に取り組んでいる。教員の皆さんもそれに応え、少しずつ良い方向に変わってきていることを評価したい。	企業・識者からいただく意見を踏まえ、引き続き、より良い教育ができるよう改革に努める。
	【内山委員】 2の教育理念の周知はされていると思われますし、5のコースごとの内容は、業界ニーズに対して確実に方向づけられているのでこの2項目の評価「3」は「4」であってもいいのでは。	2と5の2項目についてはまだ不足している。 この2項目は評価3のままとする。
	【神谷委員】 7「学校における職業教育の特色は明確になっているか」だが、これに関してエビデンス等説明いただきたい。	3つのコースで専門性高めている。フィールド学習については、講義1に対し実習6の割合で実践重視型としている。また、インターンシップⅠ、Ⅱ、Ⅲと2年間で330時間設けており、卒業後すみやかに職業人として対応できるカリキュラムにしている。以上により評価値は4をつけている。
2 学校運営	【内山委員】 23職員の研修について、教員ご自分の分野以外で、受けられるような研修はあるか。	県の職員研修所のパワーアップ研修やマネジメント研修を受けることが可能である。
	【神谷委員】 資料1 中長期計画の項目と資料3 単年度計画の番号がずれている。文章を作る時に、統一し、わかりやすくしたほうが良い。	整合性をとり、見やすく工夫していく。
	【大塚委員】 農業高校との連携強化について、卒業生の進路先として、多くの生徒がアカデミーへ進学している。また、花と緑の連携授業で、高い技術の方に指導してもらうことで、農業高校も刺激を受けている。今後も連携強化をいただけるとありがたい。	花と緑の連携授業については、県内農業高校だけでなく普通高校や県外の高校からも要望がある。教員が本校にとどまらず、他校へ出向いて授業を行うことについて、今後も推進に努める。

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
3 教育活動	【大橋委員】 学生の授業アンケート結果「やや不満足」「不満足」の授業数が令和3年度増加している。具体的に、授業の改善方法について教えていただきたい。	授業の不満足解消について、丁寧な説明・分かりやすい解説に努め、資料を見やすくする、個々の学生の進捗状況に応じて対応する等改善を図っている。 令和3年度不満足が増えた要因に、新型コロナウイルスの影響により学修日程がタイトになったことがあり、オンライン等も活用し、スピーディーに対応する。
	【松尾委員】 インターンシップについて、実施時期が遅すぎるのではないか。実務者を育成するのであれば、もう少し早めに外に勉強に出すことが必要では。2年生の後期はほとんどの学生が就職が決まった後のインターンシップになるのではないか。1年生や2年生の早い段階で、いろいろな職業を体験することによって、自分のやりたい道が確定できる。自分の道を確定させるためにも、2年生後期に重点を置いているインターンシップを前倒ししたらどうか。	インターンシップの時期は1年生の11月(インターンシップⅠ)、2年生に進級する春休みから2年生前期にかけて(インターンシップⅡ)、2年生の10月(インターンシップⅢ)である。専門学校の2年間しかない時間の中で、全体の枠組みを考えると、今はこのあたりが精いっぱいのところである。ただし、企業の活動も年々早くなってきており、選択になっているインターンシップⅡをうまく活用するよう学生に指導している。カリキュラム全体の中で、前倒しすることができるか、検討を行う。
	【松尾委員】 評価項目45など、カリキュラム作成について、卒業生や現役生の声を聴いて、カリキュラムを改善、変えていけば、さらに良い学校になると思う。	カリキュラムの作成については、教育課程編成委員会での確認や、委員の意見等を反映している。 今後もいただいたご意見を踏まえ、改善に取り組む。
	【神谷委員】 資格取得の合格率について前年より下がっている(2級造園技能士実技、2級フラワー装飾技能士実技)ことが気になる。学年によって違うこともあるが(学校の指導の影響とは言えない部分もある)、合格率が下がっていることについて教育指導上、何か原因があるか。	合格率は、年度ごとの学生の取り組み状況も影響している。 技能検定対策実習では、授業での確実な技術習得を目標とし、合格レベルに達するために、授業にプラスして自主練習指導を行っている。 資格取得指導については、専任教員と非常勤講師の2人体制で、学生に意識づけをしながら、課題が自分のものになるよう学生に合わせた指導をしていく。
	【神谷委員】 退学者3名とのことで、休学者・退学者率が高いのではないか。退学状況を教えていただきたい。	令和3年度の退学者は3名。入学早々ひと月たたないうちに、1名退学。1名は半年休学し、その後退学して大学へと進んだ。1名は後期に別の道に行きたいと退学。この者は大学を卒業してアカデミーに来たが、自分の行く道がうまく見つからず退学となった。 今後も退学者をなくす取り組みのひとつとしてスクールカウンセリングを継続して実施する。

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
4 学修成果・教育成果	【神谷委員】 59,60について、全体的な成果をどのようにとらえて可視化しているか。59については、エビデンスがない。アセスメントポリシー、アセスメントプランが必要。	項目の理解度が足りなかったため、評価項目59,60について評価値「3」に修正。 アセスメントポリシー、アセスメントプランについて、今年度作成する。
	【内山委員】 66資格や検定に関する目標設定とは。資格取得、合格を目指せば、「2」でなくともいいのでは。 【小栗委員】 資格検定の合格率低いと感じる。技能士試験について、事前に課題が出されるため、何度も練習して自分のものにしていくことが必要。本人の意識づけが大切。本人の意識により差が出る。時には厳しく、時にはやさしく、よりよい人材を育てて欲しい。 評価項目66,67については、ほぼ適切であり評価値「3」で良いのでは。	66,67について、資格・検定については目標を設定し教職員で共有しているが、コンペティション・コンクールの企画などへの出場目標などを設定していなかった。 コンペティションの企画等について、担当教員による目標設定及び教員間での共有を行う。 評価値としては「2」→「3」に修正する。 資格検定については、不合格の要因分析、技能検定対策授業での確実な技術習得や補講の実施、学生個々の修得状況に応じた繰り返しの練習指導など、資格取得率の向上を図る。
	【大塚委員】 63学生の就職活動の記録について質問。学生の就職先を見ると、学んだことを活かして当初の理念に合致した先へ就職できていると思う。入学時の希望と卒業時の就職先が合っているのか（目標を卒業時達成できたのか）。希望が変わった生徒もいるのか。	本校は専門学校であり、方向性を持って入学している。1年生の前期で全般を学び、1年生の後半に3つコースに分かれ、2年生になると専門を突き詰めていく。しかし、途中でのコース変更もあり、それを認めるシステムにしている。入学した時と卒業時が100%一致することはないが、その時の学生の希望等に合わせて指導ができるような体制をとっている。
	【大塚委員】 就職をした後の離職の状況について教えていただきたい。	当アカデミーの3年離職率は約3割。離職率は業種や企業規模によってかなり変わってくる。 また、本人がスキルアップするための離職はよいのではないかという認識。

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
5 学生支援	【高木委員】 入学の時、一番不安があったのは、学校の周辺環境や実際学生さんはどんな所に住んでいるのかというところ。自分で調べることもできるが、実際に通っている先輩の生の声が聞けると不安が和らぐ。合格が決まって、入学する前、見学会の時等で先輩学生と話す機会があると良い。	オープンキャンパスでは在校生とふれあい、話ができるが、学校見学会では在学生と接点はない。就学前の一番不安な時期に、在校生や学校と関わる機会をもてるよう検討する。
	【大橋委員】 県では令和3年4月に花と緑の振興コンソーシアムを立ち上げ、異業種、他の業界とつながるということで72企業入っていただいている。また、花と緑の振興センターでは、生産者の経営研修や今後温室を建設し技術研修を実施予定。アカデミーの卒業生に、こうした施設を活用いただいたり、コンソーシアム企業などは就職時に活動いただけるのでは。アカデミーの学生さんにはぜひ活用をお願いしたい。	コンソーシアム企業とアカデミーがマッチングでき、学生が県内優良企業に就職できるネットワークができればよいと考える。最新の温室が建てられる予定とのことなので、スマート農業の授業も活用し、学べる機会をつくっていただきたい。 アカデミーの学生が県内コンソーシアム企業に就職して、県内に住むといった場合、奨学金制度をつくっていただけるように働きかけを行う。
	【神谷委員】 大学では担任制度をとっている。相性もあるが、悩みを聞くなどきめ細やかな指導ができるため、人数的な制約もあるが担任制度を考えていくと良いのでは。	担任制をとるということは、それに特化した教員を配置するということになるため、採用計画等を含め大きな枠組み(森林文化アカデミーや農業大学校と併せた枠組み)の中で検討していければと考える。
6 教育環境	【大橋委員】 ぎふワールドローズガーデンの中の花トピアを活用した学習環境を充実させる方向で進んでいる。現在、園芸アカデミーの中でどのように検討されているかの説明を。	花トピアでどのような機材が必要か、また花トピアで実施可能な実習・座学の授業数等について、学内で推進チームをつくり検討している。農産園芸課と連携して進めていきたい。
7 学生の受け入れ募集	【内山委員】 106の入学予定者に対しての学習指導があるか。支援というのは金銭的なものか。住居に関しては紹介などされているのか。	学習指導は現在ないため、今後意欲のある学生に対しての指導について検討する。金銭的な支援はない。 住居に関しては、学校から斡旋はしないが、問い合わせがあれば、通学や生活に便利な近隣地域や家賃相場等の紹介をしている。こちらから何らかの形で学生に伝えることにする。

評価項目	委員の意見	本校の認識・対応方針
8 教育の内部質保証システム	【神谷委員】 自己点検評価組織は委員会を指す。学則第2条(自己点検・評価を実施すると定めている)に基づき、自己点検評価委員会が必要。内部質保証推進委員会や自己点検評価委員会等組織化が必要。	現在は、学校運営会議で自己評価を実施している。今年度、委員会組織をつくり、規程を整える。
9 財務	特段意見無し	
10 社会貢献・地域貢献	【松尾委員】 5月28日花いけバトル全国選抜大会が開催される。アカデミー学生の協力や見学体制について教えていただきたい。 また、今後も応援に来ていただきたい。	当日7名ボランティアで準備、運営に携わる。 今後も積極的な参加呼びかけを行う。
11 国際交流	【内山委員】 リモートにより、世界中のどこでもつながることができる世の中だが、やはり人間の交流は実際に会うことが重要と考える。修学旅行の機会などを利用して、各国の園芸学校を訪問する実績を重ねることで、留学の希望者、もしくは交換留学の可能性も広がるのではないかと。 【大橋委員】 コロナ禍で国際交流が難しいなか、フランスのベルサイユとの関係を築き上げてきている。国際交流計画を策定しているとのこと。計画について方針など詳しく教えていただきたい。	海外視察研修は、新型コロナが収まればまた実施していく。 国際交流計画については、①園芸造園先進国の教育機関とのネットワークづくり、②学生の交流、③情報発信・情報収集の3つの柱で計画づくりを進めており、令和4年度策定する。
総合的な評価結果、全体を通して	特段意見なし	